



『まぐ子』
西加奈子 著 / 福音館書店

小さな温泉街に住む小学5年生の慧は、子どもと大人の狭間にいる。心も体も猛スピードで大人になっていく女子たちを横目に。そんな慧のクラスに、コズエという女の子が転校してくる。コズエは、何かを「撒くこと」が好きで、大きな秘密を抱えていた…。春が来ると、新しい学年、新しい職場、新しい環境・新しい何かが始まって、否応なしに大人になっていく。そのことにあらがいたい時もあったと、ふと、思い出した1冊



『革命のファンファーレ』
西野亮廣 著 / 幻冬舎

絵本「えんとつ町のプペル」を30万部突破のヒットに導いた著者が語る、現代の生き方・働き方。読み始めはただの屁理屈な人だと思っていました。しかし、読みすすめると、自分の魅せ方・売り込み方の上手さ、多様化する世の中への柔軟性が垣間見えてきます。西野さん、ただのチャラチャラした芸人さんだと思っていてごめんなさい。



『すみれちゃんのお片付け12カ月』
渡辺ゆき 文 / 岩崎書店

子どもによる、子どものお片づけ本。4月から1年を通し、机周りや本棚の整理、学校で使うものの管理などを紹介。春は新しいことを始めたい季節。お片付けが苦手なあなた、チャレンジしてみませんか？



『桜風堂ものがたり』
村山早紀 著 / PHP研究所

万引き事件をきっかけに、長く勤めた書店をやめることになった青年。ある田舎町の書店を訪れた彼に、思いがけない出会いが待っていて…。本と人への思いが起す奇跡の物語。春の日差しのような優しいぬくもりにあふれた一冊です。



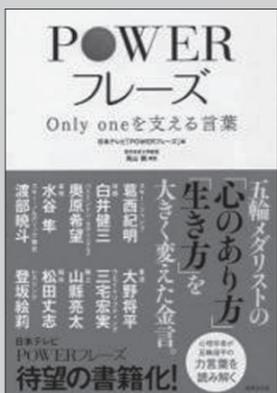
『正しいパンツのたたみ方—新しい家庭科勉強法』
南野忠晴 著 / 岩波ジュニア新書

家庭科って、何を学ぶ教科？調理実習に裁縫、それにパンツのたたみ方？自分の暮らしだけでなく、社会の中で共生していく力を育ててくれる家庭科。学生はもちろん、自立と共生を見直したい大人にもおすすめです。



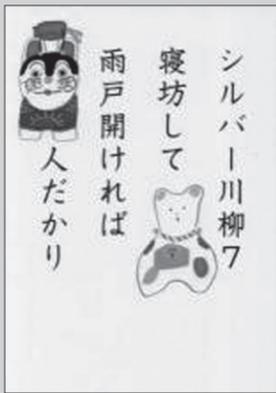
『かこさとし あそびずかん はるのまき』
かこさとし 文・絵 / 小峰書店

ぽかぽか陽気に誘われて、春は草花が芽を出し、花を咲かせます。皆さんも道端の草花でいろいろな遊びを楽しみませんか？この本には草花遊びや外遊びなど、春ならではの楽しい遊びがたくさん載っています。



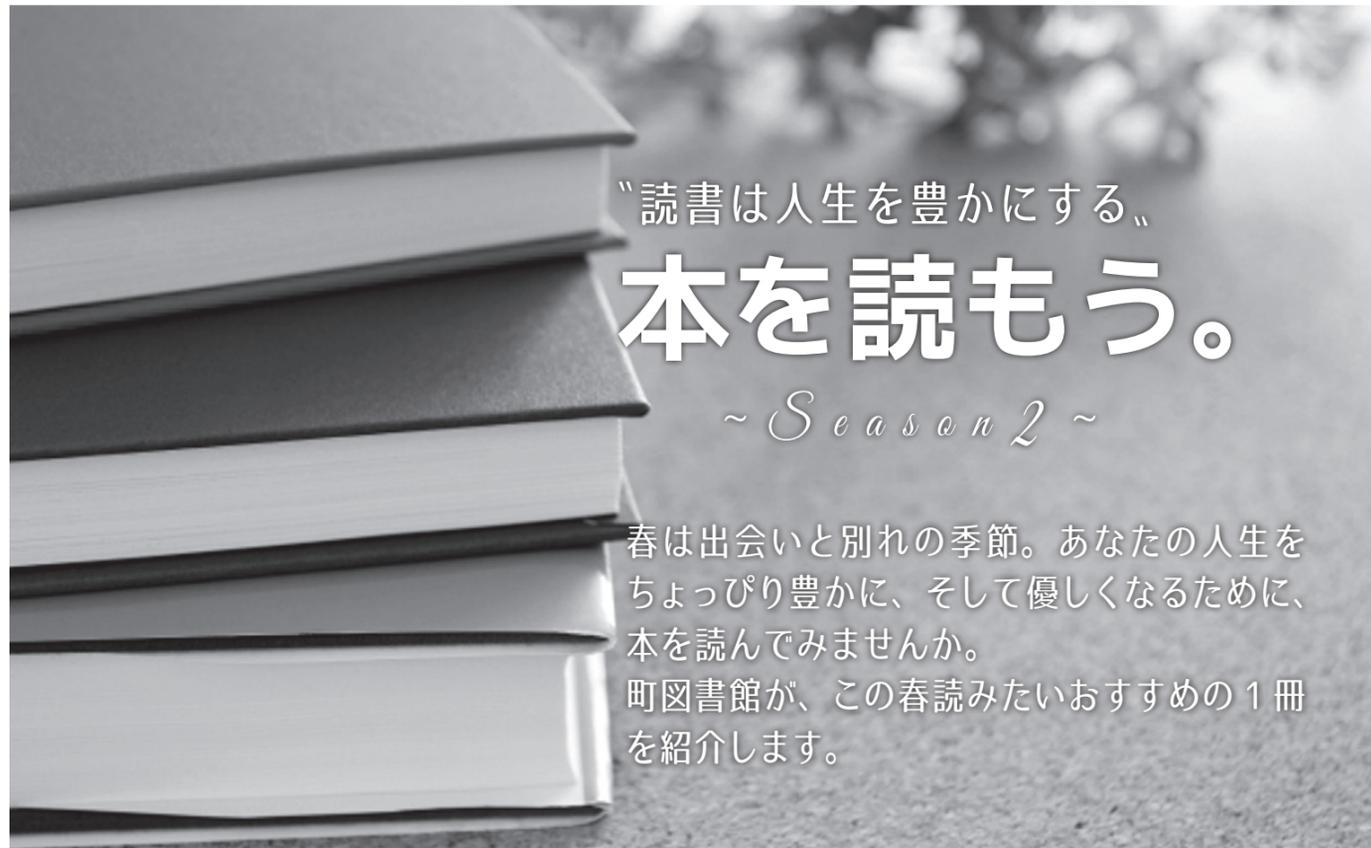
『POWERフレーズ Only oneを支える言葉』
日本テレビ「POWERフレーズ」編 / 世界文化社

冬季オリンピックで沸いた日本。感動の裏側では、色々な困難を乗り越えた勝利の道があります。五輪メダリストの「心のあり方」「生き方」を大きく変えた言葉とは何なのか。



『シルバー川柳7 寝坊して雨戸開ければ人だかり』
有料老人ホーム協会+ポプラ社編 / ポプラ社

大きい字とイラストで、目が悪くても十分楽しめるシリーズおすすめNo. 1。一人で読んでクスッと笑うもよし、みんなで読んで大笑いするもよし。さて、この表紙の一句、すぐにピンときて笑えたあなたの脳は、まだまだ大丈夫です。



“読書は人生を豊かにする。”
本を読もう。
~ Season 2 ~

春は出会いと別れの季節。あなたの人生をちょっぴり豊かに、そして優しくなるために、本を読んでみませんか。町図書館が、この春読みたいおすすめの本を紹介しします。



『海亀たち』 加藤秀行 著 / 新潮社

広告営業中に代官山の美容院で見た海辺のダヤンの美しい風景写真にひかれて主人公は仕事を辞めベトナムに飛びます。新天地でゲストハウスを起業するが夢破れ、万事休すのところを、香港からベトナムへゲーム関係の広告代理店の支社を設立しようとやってきた経営者二人に拾われ、自分の魂の声を感じながら成長していきます。みずみずしい感性で描かれた日野町生まれの作家の最新作

作家・加藤秀行さんは、両親の実家のある日野町の産院で生まれ、千葉県で育ちました。デビュー作の「サバイブ」で文学界新人賞を受賞(2015年)。その後、「シェア」が第154回芥川賞候補(2016年)、「キャピタル」も第156回芥川賞候補(同年)に選ばれるなど、今後の活躍が期待される作家の一人です。



『春待ち雑貨店ぷらんたん』
岡崎琢磨 著 / 新潮社

ハンドメイド雑貨店「ぷらんたん」をめぐる人々の物語。それぞれが抱える葛藤、不安、怒り、憎しみ。主人公の店主がその一人一人に寄り添い、時にはそっと背中を押し、優しく心を解きほぐしていきます。やがてどこからか聞こえてくるメジロのさえずりに春の訪れを予感させます。ハンドメイド好きの人にもおすすめです。



『風の中のマリア』
百田尚樹 著 / 講談社

オオズメバチのワーカー(働き蜂)マリアの生涯が描かれます。働き蜂の命はわずか三十日…。幼い妹たちと「偉大なる母」のため、恋もせず、子も産まず、命を燃やして戦い続けるマリア。オオズメバチの生態をはじめ、セイヨウミツバチ、ニホンミツバチとの関係などが細かな取材に基づき描かれ、生命の不思議、自然の偉大さも感じられる作品です。